

岐阜圏域 各医療機関の2025年に向けた対応方針【①今後の方向性】

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
1	変更	みどり病院	岐阜市	<p>【現状、特徴】 岐阜市東部の地域医療を担ううえで、在宅療養を続ける方が時々入院、ほぼ在宅といった地域での生活支援ができるよう入他院調整を実施。</p> <p>【課題】 現病院の各種設備の老朽化に伴い、2024年5月に新築移転予定。これまで課題であった個室の少ない部分を解消できるよう、個室を一定確保した。</p>	引き続き、地域の医療介護ニーズに応えること。とくに、地域の自治会や社協、介護施設からの多様なニーズに応えられるよう、懇談を重ね仕組みづくりを検討しています。	実施済み					○	2020年に急性期一般病床55床のうち18床を地域包括ケア病床へ転換したため。
9	変更	岐阜市民病院	岐阜市	<p>【現状、特徴】 ・岐阜市立の公立病院として地域の医療を支える役割を担う当院は、関係機関と連携して市民のニーズに応え、小児医療、精神科医療を含む幅広い医療を提供するとともに、岐阜圏域の急性期医療の中心的役割を担う病院として、専門的な手術、がん医療などの先進的かつ高度な医療や救急医療を提供している。 ・また、当院は災害拠点病院の指定を受け、災害時における救命医療を提供する機能を整備している。 ・診療実績(令和4年度) ・入院延患者数 163,741人 ・外来延患者数 308,892人 ・平均在院日数 10.7日(一般)・救急搬送患者数 5,936人 ・職員数(令和5年4月1日現在) 1,402人</p> <p>【課題】 ○高齢化に伴い増加する重症患者への対応 ・医療提供体制の強化(救急診療・手術実施体制) ・手術室や高度治療室(重症患者管理病床など)の不足解消 ○人材の確保・育成 ・少子高齢化に伴う働き手の減少を見据えた計画的な職員採用 ・診療機能を維持・向上するための専門職の計画的な育成 ○医師・看護師など医療技術職の働き方改革 ・職員の業務負担の軽減と医師の時間外勤務上限規制への対応 ○地域の医療機関等との連携強化 ・新型コロナウイルス感染拡大で減少した紹介患者の受け入れ拡大 ・円滑な転院調整等による在院日数の適正化 ○医業収支の改善</p>	公立病院として、小児医療、精神科医療を含む幅広い医療ニーズに対応するとともに、岐阜圏域の急性期医療を担う病院として、職員の充実を図りながら、救急搬送患者や重症患者の増加に対し、専門的な手術、がん医療などの先進的かつ高度な医療や救急医療を提供していく。また、災害拠点病院としての機能を整備し、自然災害や新興感染症の感染拡大等に対応していく。						○	人口推計によると、岐阜圏域における65歳以上の高齢者数は今後も増加が見込まれている。現状で年間の救急車搬送患者の受入人数がおよそ6,000人に迫り、また、一般病棟の稼働率が90%を超える状況において、公立病院として、また急性期病院として今後も地域に必要な医療を提供するためには、現状の機能を維持する必要があると考えている。

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
10	変更	独立行政法人国立病院機構長良医療センター	岐阜市	<p>【現状、特徴】 呼吸器疾患（結核を含む）は、呼吸器系腫瘍、呼吸器感染症、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息などについて取り組んでおり、肺癌手術、化学療法、放射線治療も行っている。がん疾患については、緩和ケアとして、令和5年1月10日より緩和ケア病棟を開棟し、呼吸器系以外のがん患者も受け入れている。 神経筋疾患（筋ジストロフィーを含む）・重症心身障害等を有する障がい児（者）はショートステイから長期入院まで幅広く対応している。</p> <p>【課題】 結核病床を30床有していたが、令和4年度の結核1日平均患者数が11.6名という状況であり、全国、岐阜県の動向を見ても、患者数は年々減少傾向にあることから、岐阜県との調整により令和5年10月1日より18床に削減した。今後は更なる効率化を図るためモデル病床化を検討している。</p>	急性期機能（肺がん患者等）を活かしつつ、他の医療機関で実施していない、結核、筋ジス・重心といった慢性期機能をしっかりと担っていく。また、近隣急性期病院の充実度、緩和ケア医療のニーズなどを踏まえ、令和5年1月10日より緩和ケア病棟を開棟した。今後、回復期系の機能を更に充実させる方針である。	実施済み	実施済み					令和5年1月10日より、中央4階病棟（急性期45床）を緩和ケア病棟（回復期18床）に転換した。また、結核患者数の減少に伴う結核病床数の見直しを行い、令和5年10月1日より30床を18床に削減した。
11	変更	Y&M藤掛第一病院	岐阜市	<p>【現状、特徴】 医療療養病床として、慢性期の患者様の受け入れを行っております。特に事情があり介護施設に入れない方の受け入れを行っております。</p> <p>【課題】 医師・薬剤師・看護師・介護職員と少ない人数で行っている為、どうしても人数的に限界があり、たくさん受け入れる事が出来ない。職員の数を増やす事が課題である。</p>	現在と同じ慢性期を担う予定である。特に介護施設・自宅等で看る事が出来ない患者様の受け入れを行っていく。						○	医師・看護師・薬剤師・介護職員等、人員の確保が出来ないため、最低限の事しか出来ない。
12	変更	医療法人慶睦会千手堂病院	岐阜市	<p>【現状、特徴】 地域包括ケアシステムを担うため、地域包括ケア病床の増床を行った。また、常勤医全員が在宅診療を行い、在宅からの入院患者の受け入れを積極的に行っている。</p> <p>【課題】 常勤医の高齢化。地域の訪問看護ステーションや施設との情報共有をもっと密に素早く行いたい。</p>	2022年末に病院移転を行い、より地域医療に貢献できる体制をとる。地域のクリニック医師や訪問看護師、ケアマネジャーと連携し、医療圏の中心としてコンシェルジュ的な役割を担う所存です。当院にない診療科は積極的にクリニックを紹介するシステムを構築したいと考えています。	実施済み						令和5年8月1日 地域包括ケア入院管理料20床転換済み
26	変更	朝日大学病院	岐阜市	<p>【現状、特徴】 地域中核病院として急性期から回復期までの機能を有しており、急性期においては内科、外科のほか、脳神経外科、歯科においても当直体制を敷いている。回復期機能としては回復期リハビリテーション病棟及び地域包括ケア病棟を有している。そのほか、血液浄化センターとして許可病床とは別に40床を有するほか、歯科の二次医療機関であり、総合健診センターにおける予防医学にも注力している。</p> <p>【課題】 本院の特徴をさらに活かしていくためには、救急外来、手術室が老朽化、狭隘化している等の問題があり、これの抜本的改善が必要である。また、検査関係の機器更新、狭隘化への対応も喫緊の課題である。さらに歯科医師臨床研修において20名の研修歯科医を受け入れているが、そのための施設設備の充実がさらに必要である。</p>	交通の要所である岐阜駅近接の二次救急病院としての責務を果たす一方で、今後高まる回復期機能の充実を図る。また、糖尿病、整形、脳卒中の特色ある分野の他、総合健診センターにおける予防医学へのさらなる貢献と、加えて、増加する透析患者への医療提供を確実に進めていく。これらのために、新興感染症への対応も視野に入れた施設計画を策定中である。	○	○	○				現在抱える課題を解決するには現施設では対応できないため、2027年竣工を目指して新棟建築の計画を策定中で、この中において、（高度）急性期病床の一部を回復期機能に一部転換することを検討課題の一部としており、長期的には病床数の見直しも視野に入れている。現在整備が進みつつある一次脳卒中センターへの対応も進めている。

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
35	変更	岐阜県厚生農業協同組合連合会 岐阜・西濃医療センター岐北厚生病院	山口市	<p>【現状、特徴】 施設整備事業に伴う病床再編により、総病床は316床から284床へ減床しています。再編後の病床は効率的に運用しており、岐阜県からの要請に応じた新型コロナウイルス感染症に対応する病床を確保しています。</p> <p>病床機能としては、必要な急性期機能を有した上で、回復期、慢性期及び在宅医療等に積極的に取り組み、各医療機関及び介護施設等、関係機関と連携することで圏域北部において、切れ目のない医療機能を担う病院としての一翼を担っています。</p> <p>【課題】 ①常勤医師及び医療従事者の確保について 令和5年11月現在、常勤医師は23名で、常勤診療科は内科、外科、整形外科、泌尿器科及び放射線科となっています。その他の診療科は非常勤医師で対応しており、救急医療と診療体制の更なる充実に向けて医師確保が必要です。 また、薬剤師、看護師、看護補助員等の不足している要員の確保が必要です。 ②働き方改革への対応について 医師を始めとした医療従事者等の時間外労働等が社会問題化していることから、本院においても救急医療を安定的に担う上で更なる医師確保と働き方の見直しを検討する必要があります。</p>	<p>総病床284床を262床へ削減するとして計画し地域医療構想等調整会議の承認を得ていますが、今後の新興感染症等の需要の動向を見据えて、削減時期を再検討する必要があります。</p> <p>限られた医療資源の中で「地域完結型」の医療を支える役割を担う必要があります。今後、更に高齢者の比率が高まるなか、地域の医療需要に応えるため、地理的要因により急性期から回復期、慢性期医療まで中核的役割(中核病院)を担います。</p>	実施済み	実施済み	○	実施済み			<p>①②病床機能・病床数の見直しは、令和3年度に実施し32床減床した。また、2025年に向け病床機能(回復期)の病床数の見直しを予定している。</p> <p>③令和6年4月から準無医地区に巡回診療を行う予定としており、へき地医療拠点病院として県に申請した。</p> <p>④本会の中でセンター化し、医師及び医療従事者を必要時に相互派遣している。</p>
63	変更	松岡整形外科・内科リハビリテーション	岐阜市	<p>【現状、特徴】 岐阜市を中心に、医療・介護・福祉・保育サービスを展開し、地域の人々が住み慣れた地域で暮らし続けられるように、愛される施設づくりを我々のライフワークとして邁進しています。なかでも運動器系統の機能障害と形状変化の予防と治療に力を入れています。</p> <p>【課題】 地域の高齢化により腰痛、膝、脊椎等整形外科分野対象の健康寿命を永くするためにも痛みを取り除く手術は必須になってきます。今は簡単にできる手術も増え、リスクも少なくなっており、今後は手術件数も増える見込みの為、2023年11月より一般病床を1床から13床に(療養病床を18床か6床)変更して地域医療に貢献する所存です。</p>	<p>高齢者に多い骨折や脊椎の手術を積極的に行い、入院治療とリハビリを提供することで在宅復帰や介護サービスに結び付けていく。 特に在宅復帰後も馴染みのある地域で暮らしていけるよう地域医療の発展に貢献する役割を担う。</p>	実施済み						<p>総病床数19床のうち、2023年11月より一般病床を1床から13床に、療養病床を18床から6床変更</p>